学校番号	1008

令和８年度　地理公民科

教科	地理歴史	科目	(学)世界史演習	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「詳説世界史」（山川出版）						
副教材等	「時代と地域の羅針盤 アカデミア世界史」（浜島書店） 「新世界史研究ノート 標準編」（啓隆社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では特に世界史の近代史から現代史までを学んでいくなかで歴史のロマンを感じ、世界の歴史に関する知識と理解を深める。学習で身につけた資質・能力をもとに、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察する。歴史総合・世界の文化と歴史①・世界の文化と歴史②に続く科目として設定しているため、世界史探究で受験を考えている生徒は必須である。同時に、古代から現代までの世界史を演習問題形式で総合的にとらえていく。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論できる力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	イギリスの優位と欧米国民国家の形成	○第13章 ・ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会変動 ・列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 ・アメリカ合衆国の発展 ・19 世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	a:19 世紀のヨーロッパ情勢、欧米文化の展開と近代諸科学の発展がどのように推移したのかをウィーン体制や 1848 年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。 b:19 世紀のヨーロッパ、アメリカ合衆国の領土拡大、欧米文化を示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとにウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c:19 世紀のヨーロッパ、アメリカ合衆国の発展、欧米の文化の再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○定期考査 ○小テスト	○定期考査 ○ﾜｰｸ ○レポート	○発問・ペアワーク ○レポート ○ﾜｰｸ ○ノート ○発表
一学期	アジア諸地域の動揺	○第14章 ・西アジア地域の変容 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動	a:オスマン帝国・イラン・アフガニスタンにおける動揺や改革の推移、ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯、欧米諸国の進出の経緯を諸外国との関係とあわせて理解している。 b:マムルークの一掃、東南アジアの植民地化を表した図像資料やオスマン帝国憲法などの資料をもとに、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察し表現している。 c:西アジアの変容、南アジア・東南アジアの植民地化、東アジアの激動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○定期考査 ○小テスト	○定期考査 ○ﾜｰｸ ○レポート	○発問・ペアワーク ○レポート ○ﾜｰｸ ○ノート ○発表

二学期	帝国主義とアジアの民族運動 ／ 第一次世界大戦と世界の変容	○第15章 ・第 2 次産業革命と帝国主義 ・列強の世界分割と列強体制の二分化 ・アジア諸国の変革と民族運動 ○第16章 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカ地域の民族運動	a:第 2 次産業革命、列強による世界分割、アジア各地の改革が社会に与えた影響や帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯を理解している。 a:第 1 次世界大戦とロシア革命、国際秩序の内容がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。 b:諸資料をもとに欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景、列強による世界分割、アジア各地の情勢を多面的・多角的に考察し表現している。 b:第 1 次世界大戦に関する図像資料および「平和に関する布告」などの資料をもとに、第 1 次世界大戦とロシア革命が世界にもたらした変容、1920 年代の欧米各国、アジア・アフリカ各地の民族運動の特徴や共通性における変容を多面的・多角的に考察し表現している。 c:第 2 次産業革命と帝国主義、列強の世界分割、アジア諸国の変革と民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 c:第 1 次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ体制下の欧米諸国、アジア・アフリカ地域の民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○定期考査 ○小テスト	○定期考査 ○ワーク ○レポート	○発問・ペアワーク ○レポート ○ワーク ○ノート ○発表

二学期	第二次世界大戦と新しい国際秩序	○第17章 ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の崩壊 ・第二次世界大戦 ・新しい国際秩序の形成	a:世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動き、第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解している。 b:諸資料をもとに世界恐慌下の各国における変容を、ファシズム諸国や日本の動き、第2次世界大戦の特徴、戦後国際秩序下の各国について、多面的・多角的に考察し表現している。 c:世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊、第2次世界大戦、国際秩序について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○定期考査 ○小テスト	○定期考査 ○ﾜｰｸ ○レポート	○発問・ペアワーク ○レポート ○ﾜｰｸ ○ノート ○発表

三学期	冷戦と第三世界の台頭 ／ 冷戦の終結と今日の世界	○第18章 ・冷戦の展開 ・第三世界の台頭とキューバ危機 ・冷戦体制の動揺 ○第19章 ・産業構造の変容 ・冷戦の終結 ・今日の世界 ・現代文明の諸相	a:冷戦がどのように進展したのか、第3世界の台頭、ベトナム戦争をはじめとする1960年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。 a:1960～1980 年代の各国の経済や社会の状況、冷戦の終結、冷戦終結後の各地の状況を、経済構造の変化をふまえて理解している。現代思想・文化の特徴をそれまでの文化・思想と比較したうえで理解している。 b:諸資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容、冷戦の動揺が各地にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 b:諸資料をもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係、今日の世界が抱えている課題の特徴や傾向を多面的・多角的に考察し表現している。 c:冷戦の展開、第 3 世界の台頭、冷戦体制の動揺について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 c:オイル＝ショックとその影響、冷戦の終結、現代文明の諸相にいて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○定期考査 ○小テスト	○定期考査 ○ワーク ○レポート	○発問・ペアワーク ○レポート ○ワーク ○ノート ○発表

三学期	近世から現代までの総合問題	○第１３～１９章 ・ウィーン体制 ・アジア諸国の動揺 ・帝国主義と民族運動 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ファシズムと第二次世界大戦 ・東西対立と現代の世界	a:近代の産業革命から各革命期、両世界大戦、東西対立と現代世界までの諸事象や背景について理解している。 b: 近代の産業革命から各革命期、両世界大戦、東西対立と現代世界までの要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 近代の産業革命から各革命期、両世界大戦、東西対立と現代世界までにおける諸課題を主体的に追究しようとしている。	○定期考査 ○小テスト	○定期考査 ○ﾜｰｸ ○レポート	○発問・ペアワーク ○レポート ○ﾜｰｸ ○ノート ○発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度